

琵琶湖博物館30周年記念企画展示関連セミナー

日本のトキの過去・現在・未来

—身近な水辺にすむ生き物と人の未来—



写真提供：永田尚志氏

開催日時：2026年10月17日（土）

13:00～15:30

開催場所：琵琶湖博物館ホール

主催：琵琶湖博物館

事前申し込み（定員200名）下記からお申し込みください。

*シーボルトが持ち帰ったトキ標本は、以下の企画展示でご覧いただけます。

30周年記念企画展示「博物館はタイムマシン-魚類学者がみた琵琶湖-」

開催期間：2026年7月18日（土）～11月23日（月・祝）

開館時間 9:30～17:00（入館は16:00まで）

*企画展示をご覧になるには、常設展示観覧券の他に企画展示観覧料が必要です。



13:00 挨拶と趣旨説明

「シーボルトがオランダに持ち
帰った近江のトキ標本」

琵琶湖博物館館長 亀田佳代子

13:15 講演1 「トキの歴史的分布

ー近江との関わりー」

(公財) 山階鳥類研究所副所長

尾崎清明

14:00 講演2 「佐渡島で再導入された トキの生態」

新潟大学名誉教授 永田尚志

14:45～15:00 休憩

15:00 パネルディスカッション

「トキと人のすむ水辺環境の未来」

15:30 閉会

Nipponia nippon (ニッポニア・ニッポン) の学名を持つトキは、200年前にシーボルトが江戸参府の途中で近江の大野（現在の甲賀市土山町大野）で入手した剥製標本をもとに名前がつけられました。滋賀県には、この他にもトキが生息していた記録があり、江戸時代の近江には多くのトキが生息していたことがうかがえます。

今年の企画展示では、シーボルトが持ち帰ったトキ標本が初めて里帰りをしました。この機会に、かつての日本におけるトキの分布や人との関わり、滋賀県とトキとの関わりについて紹介するとともに、野生のトキの最後の生息地、佐渡でのトキの生態や野生復帰の取組について紹介します。このセミナーを通じて、身近な水辺に生息するトキの保全のありかたや人との関わり、そして水辺環境のこれからについて考えてみたいと思います。

講演者紹介

尾崎清明 (公財) 山階鳥類研究所副所長

渡り鳥の生態研究（鳥類標識調査）やヤンバルクイナの発見、ツル類の渡り研究に従事し、日中トキ保護事業に協力している。

永田尚志 新潟大学名誉教授

朱鷺・自然再生学研究センターにおいて、トキの行動生態、繁殖生態を研究し、トキの再導入生物学の確立を行った。

【問い合わせ先】

滋賀県立琵琶湖博物館

【TEL】077-568-4811（代表）

<https://www.biwahaku.jp/>



滋賀県立

琵琶湖博物館

